

第 15 回 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉等技術委員会 議事要旨

日 時 2016 年 4 月 18 日(月)10:00~12:00

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構(NDF) 第二大会議室

1. 「戦略プラン 2016」骨子案

NDF 事務局より「戦略プラン 2016」の骨子案を説明した。

- 「戦略プラン 2016」については、「戦略プラン 2015」に福島第一原子力発電所の現場状況や最新の研究開発成果を反映し策定する。福島第一の廃炉・汚染水対策に係る役割分担、政府の「中長期ロードマップ」と NDF の「戦略プラン」との関係及び戦略プランの位置づけ、1 年間の廃炉・汚染水対策の進捗について説明した。また、骨子案における記載内容を要約し説明した。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- プロジェクトリスクと一言で言ってしまうと、何を意味するのか分かりにくい。プロジェクトに関しては、工程が想定した通りに行かないリスク、プロジェクトの遂行が人や環境に悪影響を及ぼすリスク、プロジェクトの遂行に必要な資源調達ができないというリスクなどがあり、それぞれ管理方法、オーナーが異なる。よって、戦略プラン 2016 の本文では「プロジェクトリスク」を全体的に整理し、説明する必要がある。
- 読み手が何を知りたいのかを理解し、地域社会とのコミュニケーションを通じて廃炉の進め方を共同決定していくというステークホルダーインボルブメントの哲学が読み取れるものとすべきである。廃炉を進める上で困難となっている部分については、なぜうまくいかないのか、理由を社会に説明する必要がある。

2. 第 3 回廃炉研究開発連携会議

NDF 事務局より、今回の廃炉等技術委員会と同日午後で開催する第 3 回廃炉研究開発連携会議の内容について説明した。本会議では研究開発の連携強化、人材育成、シーズとニーズのマッチングにおける取組及び進捗等が報告され、議論される予定である。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- ニーズとシーズのマッチングを実現するためには、ニーズ側とシーズ側の対話を重ね、互いにどういったニーズ、シーズがあるかを理解し、双方の距離を縮める必要がある。また、何をいつまで、どこまでするかという計画期間が重要である。
- NDF は、ニーズとシーズの対話の中でソリューションを導き出していくために、現場のニーズ、大学や企業の声の整理をし、双方を結びつける役割を担うべきである。(廃炉等技術委員会委員の)我々もそうしたニーズとシーズのマッチングを実現するため支援していく。

3. 第1回福島第一廃炉国際フォーラム

NDF事務局より、4月10日(日)～11日(月)に福島県いわき市のスパリゾートハワイアンズにおいて資源エネルギー庁と共催した「第1回福島第一廃炉国際フォーラム」の結果概要を報告した。本フォーラムは、廃炉の取組みに関わる人々と地域社会とのコミュニケーションを図るとともに、国内外の関連機関の協力関係を深めることを目指した。15か国から641名の参加者を得て、成功裏に終了した。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- 今回の国際フォーラムでは、特に技術展示スペース等で専門家同士の対話の実現されたが、将来的には、ポスターセッションを充実させる等により専門家同士の対話の機会を増やすべき。また、講演やパネル討論でも会場からの声を聞くことを重視する等により、地域社会とのコミュニケーションの機会をより一層増やすことが望ましい。
- 次回の国際フォーラムの開催時期については、十分な検討を行った上で決定すべきである。

4. 福島第一原子力発電所の状況

東京電力より、陸側遮水壁の凍結開始、フランジタンクへのリプレース、滞留水の水位管理、K排水路の付け替え工事の完了等、汚染水対策についての報告があった。また、今後10年間の保管管理計画や固体廃棄物焼却炉の運用開始による廃棄物の減容、3月に開始されたミュオン測定による2号機の燃料デブリの位置把握に向けた取組、全面マスク不要エリアの拡大やコンビニエンスストアの運用開始についても説明があった。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下の通り。

- 陸側遮水壁の凍結に当たっては、地層により異なる温度や事前の試験凍結の結果を踏まえ、適切な凍結運用を進めていくべきである。
- 原子炉建屋とタービン建屋の縁切りは、汚染水低減の進捗として評価できる。今後、原子炉建屋の水位管理だけでなく、タービン建屋への雨水・地下水流入の把握を適切に実施しつつ、滞留水の処理・建屋のドライアップを進めるべきである。

5. その他議題

NDF事務局より、以下の事項等について説明があった。

- NDF廃炉支援部門の最近の活動
- 今後の廃炉等技術委員会等のスケジュール

以上